

伏木水先区水先人会

防毒マスクを着用しての乗船

藤森 剛

先日、伏木富山港において、荷役中に船倉内から有毒ガスが発生するという事態が生じたので、その概要を次のとおり紹介致します。

報告年月日 2009年11月11日
分類 危険な環境のもとでの水先業務
危険の程度 事故になる可能性を含んでいた
発生時期 2009年11月9日 6時45分頃 薄明時
気象海象 天候 曇り 風向 SW 風力 3-4 m/s
視界 5 浬 波高 0.50m
発生場所 伏木富山港 新湊区

船舶に関するデータ (写真参照)

船名 CEBIHAN 総トン数 33,218 船種 バルカー
国籍 トルコ 最大喫水 7.95m
船長国籍 トルコ 仕出港 オーストラリア 中国経由
仕向港 伏木富山港 新湊区 1号/2号岸壁



2号岸壁に停泊中の本船
(11月8日ロープシフトをした)



出航作業が終了し下船直後の本船

顛末

本船は2009年10月14日早朝、神岡鉱山向け亜鉛鉱約9,800トンの揚げ荷のため、水先人の嚮導のもとで富山新港一号岸壁に右舷出船で係留した。入港後荷役が開始されたが、約3,000トン揚げた頃から大量の亜硫酸ガスが船倉内から発生した。

直ちに海上保安庁から荷役中止命令が出てその後11月9日6時に出航するまで富山新港での揚げ荷はなかった。この期間の経緯は添付した新聞記事を参照。

水先業務関連

(1) 入港時

問題なく通常通りの水先業務を行った。ガス等の臭いも無かった。(後日聞いたところによると、前港中国の港でもガスが発生しており、船倉内には入らず「せ取り荷役」であったとのこと。)

(2) 出航取り消し延期 16日目

10月29日5時45分、本船出港のため水先人2人が乗り込み水先を開始する直前になって、ガスフリー後再入港するための新港管理組合(富山県)からの岸壁使用許可が得られず出港中止となった。この時は防毒ガスマスク(亜硫酸ガス用)が代理店経由で支給され、これを装着して乗船した。(写真参照)



防毒マスクはKGC-1型(亜硫酸ガス用)

(3) 出港時 27日目

関係者の交渉がまとまり、入港後27日目になる11月9日5時45分、水先人2人が乗り込み水先を開始し、6時45分に下船した。この日のガス検査では最高時のガス量2600ppmから1/10以下に下がっており、ガスマスクを装着せずに乗船した。

最後に

本船は水先人下船後陸岸から約20マイル離れた富山湾中央部でサルベージ会社の作業員によりガスフリーが行われ、同時に船倉内に取り残した荷役機器のフォークリフト2台のラッシングを行い11月9日夕方中国に向け出帆して行った。神岡鉦山向け亜鉛鉦を積載した船舶の多くはハンディタイプのバルカーで、現在月1隻程度の入港がある。今後は水先にあたり亜硫酸ガスが発生するかも知れない危険物であるという認識の上で業務を行いたい。

以上